道徳のとびら

夢へのとびらを開いてみませんか。

今年開催された東京オリンピック、パラリンピックに出場したアスリートのみなさんは、どんな夢や目標をもっていたのでしょう。活躍の裏には、様々な困難もあったようです。福島県ゆかりの方にお話をうかがいました。日々、夢や目標と向き合ってきた方の言葉をとおして、友だちや家の人と、夢や目標について考えてみませんか。

オリンピック女子ソフトボール競技　上野由岐子（うえのゆきこ）さん

福島県営あづま球場での開幕戦から導かれた ソフトボール競技の金メダル！　ー全ての思いを福島に置いてきたー

１年前福島に行き、復興に向かう人の力や自然のパワーを感じました。その時、「自分もこういう力強さを福島の地で、オリンピックをとおして伝えていきたい」という思いをもちました。福島でオリンピックがスタートするからこそ、自分自身が福島でもらった感情や力の恩返しとして、「何かを残していきたい。マウンドで全てを出し切って、横浜に戻りたい。」という思いになりました。「感謝の言葉というかそういう思いの全てを福島に置いていきたい。無観客だったからこそ、画面をとおして何かを感じてもらいたい。」ということをすごく意識してスタートした大会でした。オリンピックをとおして、福島の地が身近な存在になりました。

パラリンピックトライアスロン女子 視覚障がいの部　菊池日出子（きくちひでこ）さん

伴走者（ばんそうしゃ）として夢舞台へトライ！

夢や目標が見つからない人もいると思います。目標がないことがダメなことではないのです。でも、私は、目標がないとがんばることができない。だから、できるかできないかではなく、トライすることが第一歩だと思っています。私も、できないことの連続でした。それでも、できることはないか、視野を広げたり探したりしてみることが大切なのではないかと思います。

パラリンピック車いすラグビー競技　橋本勝也（はしもとかつや）さん

人生を180度変えた車いすラグビーで銅メダルを獲得！
ー次の目標に向け挑戦！ー

子どもたちには、夢に向かっていろいろなことを経験してほしいです。「あれやりたい」「これやりたい」と思ったことを口に出して、お父さん、お母さん、先生に伝えてください。「わがまま」と思われるかもしれないけれどもそれでもいいのです。経験したことが今すぐに生かされるかと言えばそうではないかもしれないけれど、大人になった時に、生かせるものが何かあるかもしれないのです。

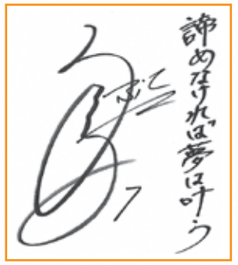
３人の言葉から感じたことや将来の夢について考えたことを、友だちや家の人と話し合ってみましょう。

●自分の考え

●友だちや家の人の考え

福島県教育委員会

上野由岐子さんに、福島県内の小・中学生の質問に答えていただきました。



「諦(あきら)めなければ夢(ゆめ)は叶(かな)う」

「あきらめなければ夢はかなう」という言葉に、すごく納得できました。自分も、「やればできる！」という言葉を信じてがんばっていたので、すごくうれしかったです。（中学生）
この言葉を聞いて、自分に自信がつきました。（小学生）

Q 「あきらめなければ夢はかなう」という言葉にこめられた思いは？（中学生）

A 「もう一度ソフトボール競技をオリンピック種目に！」という思いの中で続けてきました。正直こんなに時間がかかるとは思っていなかったし、自分がこうやって現役でやっているなんて考えていなかったです。そういった思いで続けてきたからこそ、私自身も13年後にもう一度同じマウンドに立つことができました。感謝の気持ちやいろいろな思いを、この言葉で伝えたいと思いました。

Q 何の夢でも、どんな夢でもかなうと思いますか？（小学生）

A 自分がもった夢をどれだけ本気で思っているか、どれだけ本気でかなえたいと思っているかが、最終的にゴールに到着できるかどうかだと思います。どんなに寄り道しても、どんなにくじけても、自分が本気で思った夢をあきらめなければ、必ずかなうと思います。

Q うまくいかない時は、どうやって気持ちを切り替えますか？（中学生）

A この大きな夢を達成するまでに、うまくいかなかったこともあるし、何度もあきらめたこともあります。本気で思っている夢を達成するには、たくさん挫折(ざせつ)もするかもしれません。挫折したことが悪いのではなく、新しい一歩をふみ出せるかは、どのくらい本気でかなえたいと思っているかという本気度につながっています。１回や２回の挫折やうまくいかないことにとらわれず、それを糧(かて)に新しいことにチャレンジしていくことが大事だと思います。

Q 家族にしてもらったことやかけてもらった言葉で、うれしかったことは？（保護者）

A 自分の「オリンピックに出たい」という夢を、最初は鼻で笑っていた両親が、本気で応援してくれるようになった時、何かそういうものが自分に伝わった時が、うれしかったです。そして、がんばらなくてはいけないなという思いにふるい立たされました。母親は食事だったり、父親はキャッチボールの相手をしてくれたり、そういったサポートをしてもらったことで、自分の目標に雑念なく取り組むことができました。

小学３年の時、クラスの友だちにさそわれてソフトボールを始めました。

中学生の時、長野オリンピックをテレビで見ていて、オリンピックに出たいという夢をもちました。

インタビューに応える上野由岐子さん

福島県の小・中学生へのメッセージ

私は一人のアスリートとして、一つの夢をずっと持ち続けて、あきらめずに進み続けたからこそ、今の自分があると思っています。

福島の子どもたちにも、それぞれいろいろな目標や夢があると思いますが、自信をもって自分の夢につき進んでほしいです。周りからいろいろなことを言われるかもしれないし、気になるかもしれないけれど、自分が興味をもったその一つの夢をしっかり達成することに自信をもって、一歩一歩進んでほしいです。そういう強さが福島にはあると思うので、福島の子どもたちもその強さとともに、一日一日を大事にして成長していってほしいなと思います。

上野由岐子さんへのメッセージを募集しています。

他にもたくさんの質問に答えていただきました。その様子はこちらから見ることができます。

橋本勝也さんが、田村市立船引南小学校で夢や目標についてお話してくださいました。

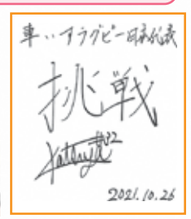
「ぼくががんばれるのは…」

ぼくが車いすラグビーをここまでがんばれるのは、いろいろな人の支えがあるからです。家族はもちろん、周りの友だち、そして今、自分の時間をさいてぼくの練習に付き合ってくれる人、たくさんの人にお世話になっています。だからこそ、支えてくれている人のためにも、結果を残し、何かの形で恩返しをしたいとずっと思っています。そういったぼくを支えてくれている周りの方への感謝の気持ちが、ぼくを動かしています。

ぼくは、夢を「目標」という言葉に置きかえて競技に取り組んでいます。「目標」は、「達成しなければならないもの」だと思っているからです。今の「目標」は３年後のパリパラリンピックに出場して、金メダルをとること。みなさんに金メダルを見せられるようにがんばります。

車いすラグビーの魅力(みりょく)は、激しいタックル。ぼくにとって車いすラグビーは、なくてはならないもの。車いすラグビーに出会って、人生が180度変わりました。体がボロボロになるまで、競技をずっと続けたいです。

苦しいという感覚は、正直なところあまりないです。ただ、夢中でした。



お話を聞き、ぼくも目標をもち、あきらめずに戦い続けるバスケットボール選手になりたいと思いました。

橋本勝也さんへのメッセージを募集しています。

ようこそ先輩(せんぱい)！菊池日出子さんが母校である棚倉町立棚倉中学校を訪問しました。

「自分で自分に限界をつくらない」

私はオリンピックを目指していましたが、出場できませんでした。そんな時に、ナショナルチームの監督(かんとく)から「トライアスロン女子視覚障がいの部でガイド（伴走者）をやってみないか」と言われ、自分が必要とされているなら挑戦してみようと思いました。オリンピックに出られず「むくわれない」と思うこともありましたが、だからこそ、パラリンピックを経験でき、一緒に練習していた仲間がメダルをとる瞬間に立ち会えました。生きてきた中で一番感動したし、一番成長できたと思っています。

私は、努力がむくわれるためにがんばっているわけではなく、その過程が大切だと思います。目標や夢に向かい「一歩ふみ出す、行動する」トライ＆エラーです。

みなさんは、「障がいのある人が運動することは大変だな」と思うかもしれないけれど、今の自分に何ができるかを考え自分にできる精一杯のことをするということはだれもが同じことなのです。

モチベーションが低下した時はどうしていますか？

ベース、根っこが大切だと考えています。いつか花開くために、今は根っこを育てる時期なのだと思い、基本のトレーニングを地道に続けます。

菊池日出子さんへのメッセージを募集しています。

※メッセージ募集の期間は令和４年２月末までとなります。

心が動き体が動く！生き方を見つめる道徳教育

～道徳教育推進校の取組から～

「ありがとうの木」について
～落ち着きと温かさのある学校を目指して～

田村市立船引南小学校

船引南小学校の教室には、「ミニありがとうの木」「こころの木」「がんばりの木」「ファイトの木」等、各学年の特色を生かした「〇〇の木」がすくすくと成長しています。先生方と子どもたちで作った各クラスの個性光る「〇〇の木」のメッセージによって、友だちどうしがつながっていきます。写真の大樹「ありがとうの木」は、学校全体の子どもたちをつなぐ木です。さらに、子どもと教職員、保護者や地域の方々全てをつなぐ心の木となっています。

共に考え、たくさんの思いにふれ、生き方を見つめる

鮫川村立鮫川小学校

自分の思いを進んで伝えようとするAさん。それを前のめりになって聴く友だち。「きまりは、何のためにあるのだろう。」と考えた４年生の授業の一場面です。

鮫川小学校では、友だちと関わり合いながら多様な考え方に出会うこと、自分を見つめて考えを深めることを大切にしています。一つではない答えを、今この瞬間の思いを子どもたちが共に考え、創り上げています。村内でたった一つの小学校だからこそ、学校・家庭・地域が一つのチームとなって子どもたちを育み、子どもたちの未来につなげています。

命の大切さを見つめて将来を思い描く

湯川村立湯川中学校

６月に全校生徒対象に「命の大切さを学ぶ授業」が実施されました。我が子を交通事故で亡くされた方の話は、子どもたちが命の尊さを強く感じる時間になりました。３学年では、さらに道徳科の授業で「臓器ドナー」の葛藤を描いた教材をきっかけに生命倫理について考えました。「大切な人のためにも生きたい」「家族には僕より先に死んでほしくない」「生きるって何でしょうか。自分には分からないです」など、様々な考えを受け止めながら深く考える子どもたちの姿がありました。生きていく上で大切な命について、各教育活動で考えることを続けています。

生徒一人一人が地域貢献を

県立好間高等学校

好間高校では、各教科の授業を通した道徳教育に加え、※LHRや総合的な探究の時間、学校行事等様々な教育活動を通して道徳教育の充実を目指しています。

５月と10月には「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に参加し、地域の美化活動を行いました。

普段何気なく通っている通学路周辺のゴミを拾うことで、地域における自分たちの存在意義を理解するとともに、この活動を通して、一人一人が地域に貢献することの喜びを実感し、自分の役割について考える機会となりました。

※LHR：ロングホームルーム

〈編集・発行〉福島県教育委員会　令和３年12月

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。